

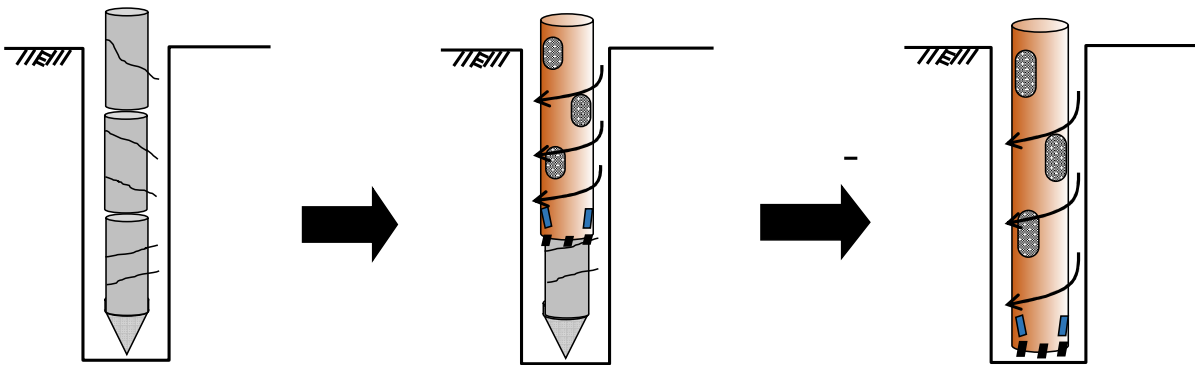
スーパーグリップ工法について

旧世代の支持杭（ペDESTAL杭＝ペンシル型先端）は 打撃貫入式により、強制的に堅い支持層に 打込まれたものが多い為、杭自体が施工時において、座屈・粉碎が生じ、「破断分離」・「中折れ」・「継手外れ」・「経年の劣化進行」している事が多くみられる。特に 杭径が細く、長尺杭に 多くみられ、杭体引揚げ時に 中折部や先端部が残置され、その回収は不能となる場合がある。

そこで、考えられたのが、『スーパーグリップ工法』である。

この工法は ケーシング先端付近に装備された 爪（2箇所）が ケーシング内部へ 可動することにより、杭下端を 包み込むようになり、既にバラバラになってる杭全体を逃すことなく、杭全撤去を可能にした工法である。

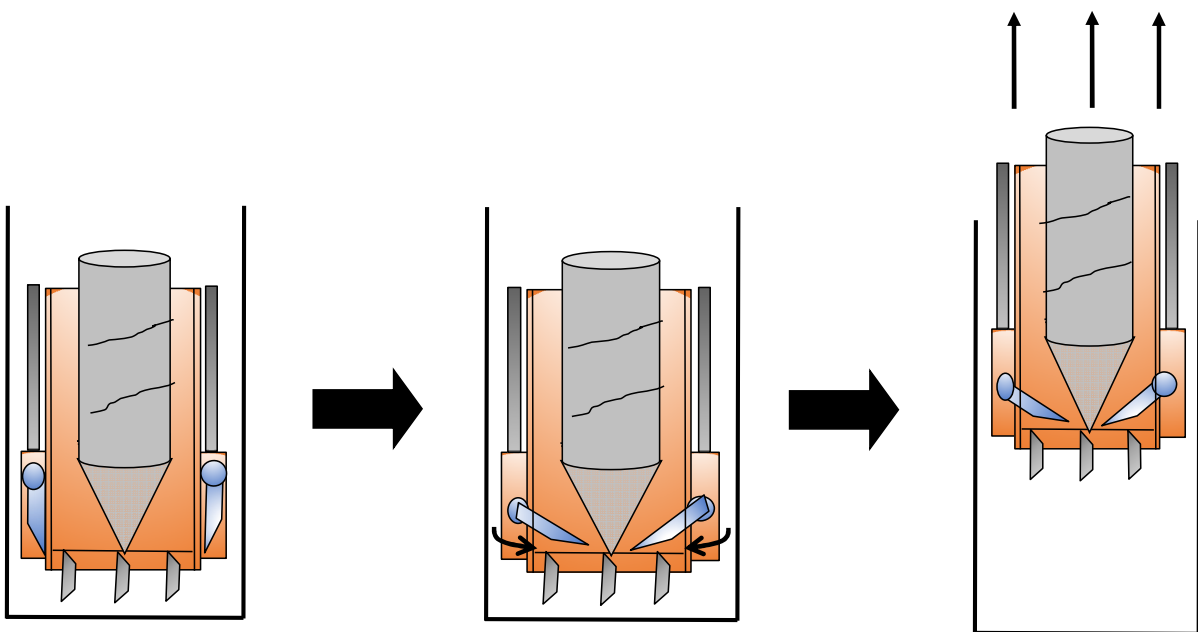
（施工詳細図）



1.既にバラバラになってる杭が 地中に有ります

2.ケーシングを全周回転させながら、杭外周を縁切りしていきます

3.杭先端まで削孔したら 回転を止めます



4.内部へ可動する爪が2箇所あります

5.油圧で爪をケーシング内部へ可動させ、杭下端部を 包み込みます

6.杭を掴んだまま、ケーシングを 引上げ、杭全撤去完了